

2002 日米フレキシブル オートメーション シンポジウム

広島大学 大学院工学研究科 機械システム工学専攻

教授 大場 史憲

(平成 13 年度国際会議等開催準備助成 AF-2001030)

キーワード：生産システム，自動化，知能化

開催日：2002 年 7 月 14 日(日)～19 日(金)

開催場所：広島国際会議場

国際会議報告：

システム制御情報学会と米国機械学会ダイナミックシステム制御部会の主催により 2002 日米フレキシブルオートメーションシンポジウムが開催された。技術論文の発表では、15 日から 17 日まで、日米を中心とする世界十六カ国・地域の大学、国立研究機関、企業などから 300 名の研究者・技術者が参加して、生産自動化、塑性加工の知能化などに関する 240 編におよぶ最新の研究成果が 52 のセッションに分かれて発表され、活発な討議が行われた。新しい傾向としては、SCM and Globalization, Micro Fabrication, Application of STEP, Reconfigurable Manufacturing System, IT on Manufacturing, LCE and Sustainable Manufacturingなどがあげられる。

15 日の開会式では、藤田雄山広島県知事、秋葉忠利広島市長が流暢な英語で歓迎の挨拶を述べられた。続く特別講演では、DARPA の Dr. E. Garcia が "Exoskeleton for Human Performance Augmentation", 畑村洋太郎教授(工学院大学)が "Learning from Failure" と題する講演をされ、参加者の強い注目を浴びた。

16 日、17 日早朝には、Solectron Japan の安井敏雄社長が、"EMS Industry Growth and Solectron Business Model", マツダの山木勝治執行役員が、"Production Engineering in Automotive Manufacturing" と題する招待講演をされ、聴衆の大きな関心と呼んだ。16 日午後には、光石衛教授(東京大学)の司会、松島克守教授(東京大学)をオーガナイザとし、欧米から G. Seliger 教授(ベルリン工科大学)、T. R. Kurfess 教授(ジョージア工科大学)をパネリストに招き、"Technology Potentials in a Regional and Global Perspective" と題するパネルディスカッションが行われた。とくに、松島教授の "Go! Nippon: Revitalize Japanese Industry" と題する基調講演は強い関心を集め、活発な議論がなされた。

14 日には、2 室並行で 2 件の技術講習会が開かれた。A. Kusiak 教授(アイオワ大学)による "Information Technology and Automation" と、リンクス社の村上延夫社長と村上慶氏による "Model-Based Software

Development for Electronic Control Unit (ECU)" で、それぞれ 11 名の聴講者があり、大変好評であった。

16 日夜、全日空ホテルでバンケットが開かれ、渡辺一秀マツダ会長のスピーチ、広島県知事の挨拶があり、伝統芸能の和太鼓演奏も交えて、大変盛会であった。さらに、Flexible Automation 分野の優秀研究者賞の授賞式が行われた。Young Investigator Award は、J. Cao 助教授(ノースウェスタン大学)に贈られ、The Hideo Hanafusa Outstanding Investigator Award は、富塚誠義教授(カリフォルニア大学)が受賞された。

17 日夕の閉会式では、最優秀論文賞の授賞式が行われた。Best Paper Award(理論)は、T. Eguchi, F. Oba, S. Toyooka(広島大学)の発表論文 "Dynamic Job Shop Scheduling Using a Neural Network: Two-Stage Training and Information Theoretic Analysis" に贈られ、同(応用)は S. Ibaraki, T. Ogawa, A. Matsubara, Y. Kakino(京都大学)の発表論文 "Model-Based Learning Control of Cutting Forces in End Milling Processes" に贈られた。最後に、次期組織委員長の R. A. Shoureshi 教授(コロラド鉱山大学)より、今回は 2004 年 7 月 12-14 日にデンバーで開催されるとの紹介があった。閉会式終了後、懇親会が開かれ親しく懇談し、再会を約した。

会議に続く 18・19 日の両日に開催されたマツダ防府工場および安田工業本社工場の見学会では、その技術レベルの高さが実感され、大変有意義であった。途中、宮島、倉敷美観地区、大原美術館などに立ち寄り、また、瀬戸内海クルーズなど日本の観光と文化を楽しんだ。



写真 1 バンケットの風景 (阪大:田村坦之教授提供)

参考文献

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/jusfa02/index.htm>